



國芳せんたい!!

こくろうせんたい **FAX版**

号外
2011年3月29日
発責 橋本 昭二
編責 武田 昌仙

東北地方太平洋沖地震

今日も明日も生き続けよう 闘争団が激励行動！

3月27日、私は（地本中島副委員長）と自動車支部石崎さん、仙台宮城野運輸区の墨絵さんとそのご子息の4名で、常磐線沿線の組合員宅に物資配達を行つてきました。また、浜吉田在住の小野さん（仙・宮運輸区）、次に山下在住の斎藤さん（同）、相馬在住の荒さん（岩沼駅連合OB）、原ノ町在住の上田さん（仙・宮運輸区）、最後に相馬の山田さん（岩沼駅連合）のお宅に伺いました。

常磐線の被災状況は、想像を絶する悲惨な光景でした。皆さんからは、「3回、津波が来てやられた」と「体育館を越えてきた来たから14mを超える津波だった」「1階がすっぽり水に浸かった。3m位まで浸水した」という話を聞き、

またOBの荒貞明さんは自宅を流されたと伺いました。常磐線沿いの被災状況はマスコミで取り上げられることが少なく、十分知られていませんでしたが、今日、目にした光景は、大変悲惨なものでした。まるで戦争の時の焼け野原のような光景の中に、流されてきた車や小舟、瓦礫の山が散乱していて、線路のレールはPCマクラギが付いたままの状態で田んぼの中に散乱しており、鉄道の復旧には相当時間がかかると思いました。

3月25日、宮城県支部秋山執行委員長と仙台建築の組合員らがこくろう会館の応急危険度判定を行つた。

これは「宮城県被災建築物応急危険度判定士」の資格に基づき実施したものであり、結果は安全と判断された。

それによれば、壁に亀裂が入つてある箇所が見受けられるものの、表面のモルタルが剥がれています。

あり、鉄骨には異常が見つからなかった。
お見舞いの連絡を頂いた組織

レポート 想像を絶する悲惨な光景

安全 建物安全診断 こくろう会館の

全国の仲間の心のこもった救援物資は、3月26日郡山地区に送り届けられたが、翌27日には国労本部から闘争団の仲間がトラックで直接救援物資を届けた。運送したのは国労闘争団神宮議長、札幌闘争団畠山氏、国労本部阿佐見書記の3名。出迎えは地本

五十嵐書記長、堀口
郡連協議長、仙台闘
争団高橋団長、佐藤
事務局長、上遠野団
員。郡山地区の社宅
は、断水箇所もあり、
飲料水・食料・医薬
品を中心支援がさ
れた。物資は、各分
会や各社宅の自治会
を通して国労本部か
らの支援として手渡
され、飲料水の放射

能汚染による乳児への影響も懸念される中で大変感謝された。また神宮議長からは国労佐賀地区闘争団からの寄せ書きと、国労博多闘争団からの義援金が地方本部に贈られ、手渡された。五十嵐書記長は「皆さんの温かい」支援に心から感謝する」と御礼を述べた。